

基調講演

雨水が流れるふるさと散歩道

アルハンブラと白子川流域の水空間の魅力とつくり

鈴木信宏

白子川と流域の水環境をよくする会会長、東京理科大学名誉教授

2010年6月26日(土) 2.30-3.30 (その後懇談会 5時まで)

白子宿地域センターで

主催 白子川と流域の水環境をよくする会



アルハンブラの落差噴水



練馬区の清水山と中里の湧き水

和光市の越後山と向山の湧き水

スペイン南部の山に降る雪と雨を、砂漠のように乾いたグラナダ地方の丘の上部に導き、宮殿が建つ傾斜地の落差を活かして、

せせらぎと噴水がきらめく

潤いある水空間、アルハンブラを

14世紀のムーア人たちがつくれた。

水はサラサラと流れ、生き生きとした表情を伝えてくれる:

チョロチョロ、ピチャピチャ。

ヒャッコイ、クスグッタイ。

透き通り、赤く燃え、広がり、空を映す。

武蔵野に降る雨は大地に浸み込み、地下を流れ、練馬区の清水山や和光市の向山の崖線に湧き出している。だがその多くは活かされることなく、白子川に捨てられてしまっている。都市砂漠の中の大切な湧き水なのに。

手と耳と目でこの水を感じられる、アルハンブラのような水辺や水中の散歩道をここにつくったらどうだろう。

どんな効果が生まれるのだろうか。

皆さんと一緒に、アルハンブラと白子川流域の雨水を眺めながら、わがふるさとの水空間散歩道の楽しみとつくりを考えてみたい。

